

ポリエステルおよびプロミックス和服地の帯電性に及ぼす
洗濯における柔軟剤の効果

東京家政大家政 ○知野 恵子 高月 智志子

目的：和服地は従来絹をもって最上とされているが、その難点は手入れがしにくく、特に家庭での洗濯は出来ないものとされているが、合織和服地の開発により洗える着物として注目されている。さらに帯電防止加工技術の向上にも相まって歩行時の帯電状態については、絹より帯電しにくいという報告もあるが、洗濯を行った場合はどのような変化があるのかを家庭用洗濯機を用いて、柔軟剤を使用した場合とそうでない場合との比較を歩行モデル装置により、帯電状態の制電効果について検討した。

方法：ポリエステルとプロミックスの合織和服地をそれぞれ組織の違う縮緬・紋綸子・絹の白生地3種の計6種類を用いて、和服の下半身部分の実物大を製作した。これを歩行モデル装置により洗濯前の帯電状態を集電式電位測定器（春日電器製）で測定した。環境条件は温度20℃、湿度30%RHである。その後家庭用洗濯機にて柔軟剤を投入したものと、そうでないものとに分けて同一の試料を洗濯し、脱水後室内にて自然乾燥した。洗濯条件は水温30℃、浴比1:30である。さらに洗濯前に行った歩行モデル装置にて洗濯後の帯電状態を計測しこれを5回繰り返した。

結果：1. 柔軟剤を投入した方が明らかに制電効果がみられた。洗濯前に比べて1/2から1/4に減少している。2. 柔軟剤を投入していないものは、1回から5回へと洗濯回数を重ねても大きな差はみられないが、柔軟剤を投入したほうは1～2回より4～5回目方が電位は高くなる傾向がみられた。